
迷惑館～銀魂の間に間に～

愛華蝶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

謎惑館〜銀魂の間に間に〜

【Nコード】

N3456BA

【作者名】

愛華蝶

【あらすじ】

森の奥深くにそびえる一つの洋館。そこはいわゆる『変人』が集まる『謎惑館』なぞわくやかただった。いきなり謎惑館に放り込まれた前原一志がそこで見たものは…？前原はこの館から抜け出せるのか？そして館の真実とは…？

ネタバレ注意です

ようこそ、**迷惑館へ**（前書き）

始めました**迷惑館**と**銀魂**の間に間に！

気軽に読んでいただくと幸いです。

ようこそ、謎惑館へ

暗い暗い森の中、黒猫が地を飛ぶように走る、走る。

黒猫がたどり着いたのは不気味な洋館。黒猫は躊躇うことなく中に入っていく、ある一室にたどり着く。

部屋は閑散としており、洋風な家具が置かれている。

そして、床には髪が長く、左目に眼帯をつけた男、前原一志が倒れていた。

「う…」

前原は起き上がると、頭を軽く振って手をあてる。

「…ここは、どこだ？」

そう言っつて部屋を見渡して、すぐそばにいる黒猫に気付く。

その黒猫が部屋の扉に向かって走り出した時、外から扉が開けられ、誰かが入ってくる。逆光で顔がよく見えない。

「こんにちは。新入りさん」

そう言っつて前原の額に指を当てた途端、前原は意識を持って行かれ、その場に倒れた。

ようこそ、謎惑館へ（後書き）

前原「何でまた俺なんだ…？D魂はどうした」

愛華蝶「同時進行さ。頑張れや主人公」

前原「俺はそんなガラじゃない」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3456ba/>

謎惑館～銀魂の間に間に～

2012年1月10日00時53分発行